

児童・生徒のコミュニケーション力について
—レクリエーション活動の有効性—

○奥村宗鷹（関西大学大学院） △涌井忠昭（関西大学）

キーワード: コミュニケーション、レクリエーション

昨今、児童・生徒のコミュニケーション力の低下が問題となり、文部科学省のコミュニケーション教育推進会議の報告(2011)では、教育機関で創造的・創作的に取り組む活動や演劇的活動を授業に取り入れることでコミュニケーション力の育成を図るとしている。しかし、遊びを主としたレクリエーション活動によるコミュニケーション力の育成は検討されていない。そこで本研究では、児童・生徒のコミュニケーション力の向上にレクリエーション活動が及ぼす影響を検討することを目的とした。方法として、まず先行研究を参考にコミュニケーションを定義し、現代社会が児童・生徒のコミュニケーション力に与えた影響を文献調査より明らかにした。つぎに、犬飼(2005)の報告より、児童・生徒のコミュニケーション力の向上にレクリエーション活動は有効であると考えた。一例であるが、平成27年度、日本レクリエーション協会は教員免許状更新講習の「選択領域」として、「コミュニケーション力を高めるレクリエーションの活用」を開講している。教育機関において、レクリエーションの知識や支援技術を用いて授業を展開することにより、児童・生徒のコミュニケーション力は向上するものと考えられる。

新入生オリエンテーションの運営を経験した学生スタッフの学び

○横山誠（大阪国際大学） 相奈良律（公益財団法人大阪府レクリエーション協会）

大阪国際大学人間科学部スポーツ行動学科では2009年から在学生在が新入生オリエンテーション（以下、新オリ）の運営に参画している。本研究の目的は、新オリの運営を経験した学生スタッフの終了後の気持ちや今後の取り組みに対する意欲について明らかにすることである。また事前準備としての必要事項や今後身につけたい能力などを明らかにすることである。アンケートは新オリ終了後のスタッフミーティングで実施し、2年生9名(40.9%)、3年生7名(31.8%)、4年生6名(27.3%)の計22名から回答を得た。

運営を通しての充実度については、「とても充実した」68.2%、「やや充実した」31.8%であり、今後の意欲については、「とてもある」68.2%、「ある」27.3%、「あまりない」4.5%であった。自由記述を分類した結果、事前準備として「共通理解」が必要という回答が最も多く、今後身につけたい能力は「コミュニケーション能力」が最も多い回答となった。